

小野美由紀著

『人生に疲れたらスペイン巡礼：飲み、食べ、歩く800キロの旅』

（光文社、2015年）

評者 坂東省次

スペイン北西部のガリシアはサンティアゴ・デ・コンポステラの名で今日、世界的に知られる。そこはカミーノ・デ・サンティアゴ巡礼の道の終着点である。

著者はカミーノ・デ・サンティアゴを次のように説明している。「カミーノ・デ・サンティアゴ」とは、スペイン北西部に向かって伸びる、キリスト教の巡礼の道のことだ。カトリックの三大聖地の一つ「カミーノ・デ・サンティアゴ」。そこに向かってフランス南部の開始地点から最長約800キロにも及ぶ道を、徒歩や自転車、馬、車やバスなどさまざまな手段で巡る、いわばキリスト教版「お遍路」。

社会人の著者はある日、突然、足が動かなくなった。パニック障害であったという。焦れば焦るほど、症状は重くなった。悩んだ末、著者の採った道は、スペイン巡礼の旅に出ることであった。

著者はこれまですでに巡礼の道を3度歩いている。1度目は2008年、レオンという街からスタートし、10日間をかけて300キロの道のりを踏破した。2度目は翌年の2009年、ブルゴスという街から500キロを20日間かけて歩いた。そして5年後の2014年には、フランスのピレネーの麓にある、巡礼路の起点となる街サン・ジャン・ピエ・ド・ポーから、約800キロもの全道程を35日間かけて歩いた。こうした体験の成果が、巡礼の道の旅の魅力を満載した本書を産んだのである。

本書は全3章から成る。第1章「スペイン巡礼とは何か」では、スペイン巡礼の概要を説明している。ここで7つの魅力に言及している。1. 宿が激安、費用がかからない、2. ごはんが美味しく、かつ、低コスト、3. 世界中の人々の多様な人生観に触れられる、4. ダイエットにも最適！やせてイイ身体になれる！？、5. 巡礼路は世界遺産だらけ！、6. 語学が上達する、7. 「自分と対話する時間」が持てる。この他「な

ぜサンティアゴ・デ・コンポステラを目指すのか」などさまざまな基礎知識によって、数多くの疑問に答えてくれる。第2章では、フランスの起点サン・ジャン・ピエ・ド・ポーから終点サンティアゴ・デ・コンポステラまでの800キロを35日かけて踏破した実際の体験談を語っている。これまで巡礼の道の本をいろいろ読んできたが、次の記述はまったく新しい情報で興味深い。

巡礼の道は、3つのパートに分かれるといわれる。第1部のサン・ジャンからグラニョンまでの215キロは「肉体の道」。グラニョンからレオンまでの245キロは「頭の道」。レオンから、聖地サンティアゴまでの300キロは「魂の道」。巡礼者たちは、まず、ピレネー越えとゆるい山道が続く最初のパートで肉体の苦しみを味わい、己の限界と向き合うことになる。次に続く平地の多いグラニョンーレオン間は、考えごとにぴったり、歩くことにも慣れ、思索にはげむ。最後に、レオンから聖地への道のりでは、肉体からも思考からも離れ、魂の浄化を味わう。著者は巡礼の道を踏破して、こんな言葉に辿りついている。カミーノは聖地に着いたら終わりじゃない。むしろ、聖地にたどり着いてからが本当の旅なんだ。

第3章では、ただ歩くだけではない、この旅に付随する食や街の魅力をたっぷりと盛り込んでいる。その一つは、美食の街、サン・セバステリアンの紹介だ。バスク地方は陸と海の豊かな自然の恩恵を受け、食材に恵まれ、スペインのどの地方より経済的にも豊かであったことから、スペイン一の料理を産んだ。バスク地方の中央に位置するサン・セバステリアンは、スペインの3つ星レストラン8軒のうち4軒があることから、美食世界一の街といわれている。

ばんどう しょうじ（教授・日西交流史）